

宮城いきいき便り

いきいきSUNクラブ、宮城いきいき学園の活動を
紹介するページです

宮城いきいき学園

◆登米・栗原校文化祭

「深めよう絆・そして感動を」をテーマに、宮城いきいき学園登米・栗原校の文化祭が10月、登米市迫町の登米祝祭劇場で行われた。

開会式では冒頭、参加者全員で東日本震災の犠牲者に対して哀悼の黙とうを捧げ、その後「宮城いきいき学園の歌」を斉唱した。引き続き、副学園長

大な文化祭が開かれることを大変うれしく思う。これまで懸命に練習してきた成果や学習の成果を存分に披露し、大勢のご来場の皆さんに大きな感動を与えていただく。また本日、地域の皆さんとの交流がさらに深まり、広がることが期待する」と話した。

来賓を代表し、登米市の布施孝尚市長が「大震災の影響が残る中、このように立派な文化祭が開催されたことに感動している。学園生の皆さんが地域社会のリーダーとして今後も大いに活躍されるよう期待する」と祝辞を述べた。



気仙沼・本吉校の有志が出演し、大いに盛り上がった登米・栗原校文化祭のステージ発表

展示発表では、学園生や卒業生が日ごろ趣味などで手掛けた写真、手芸、工芸、絵画、書画、農産物などの約180点が並んだ。ステージでは社交ダンス、太極拳といった各クラブが発表。学園生による学年ごとの合唱、レクダンス、寸劇や卒業生の踊り、レクダンスも披露され、会場は大いに盛り上がった。

認知症患者に対する家族や地域の対応を扱った2年生の寸劇「どうなる！どうする？認知症」では、出演者が丹念に研究し取り入れた演技が、来場者の大きな共感を得ていた。

東日本大震災の影響で本年度は休校の気仙沼・本吉校からも学園生有志が特別友情出演し、盛んに拍手を浴びていた。

宮城いきいき学園の文化祭は、日ごろの学習成果を総合的に発表する場。一年で最も大きい行事で、本年度は気仙沼・本吉校を除く4校ごとに順次開かれた。学園の活動を広くPRする場にもなっている。

生きがい健康づくり地区大会

宮城いきいき学園の卒業生が企画する「生きがい健康づくり地区大会」が先ごろ、東日本震災の影響で実施できなかった石巻校と気仙沼・本吉校の所在地を除く、県内3地区で行われた。



楽しく体を動かした参加者ら（仙南地区）

連合同窓会・巨理会が実行委員会の中心となり、当初は巨理町内での開催を予定していたが、震災の影響で岩沼市のグリーンピア岩沼に会場を変更して行われた。

開会式後の「第一部 ミニ健康講座」では「心のリフレッシュでも元気にー笑いのすすめ」と題し、仙台大の高橋義輝先生が講話。笑いがもたらす健康への効果についてユーモアあふれる話しぶりに、会場は笑いの渦でいっぱいとなった。

「第二部 みんなで楽しめるニュースポーツ」では、仙台大の学生の

宮城いきいき学園公開講座

宮城いきいき学園公開講座「みやぎシニアの地域活動・交流セミナー」が11月29日、大崎市古川の大崎校で開かれた。

午後、大崎市ボランティア連絡協議会会長の会田征子さんから「シニア世代には、私たちがなければできない地域での大きな役割がある」と語った。

午前にはNPO法人宮城県ボランティア協会会長の、シニアのためのネットワーク石巻顧問でもある宮川公子さんが「シニアの地域貢献活動」と題し講演した。

宮川さんは「私たちの活動に求められるのは分かち合いの世界をつくらうということ。それは本当に、ちょっとした心遣いからできる」と話した。

同様のセミナーは、東日本大震災の影響で休校中の気仙沼・本吉校を除く他の学園でも順次開催される。



さまざまな意見が発表されたセミナー